

しかしたしかに

あの時 あの地で

父は生き抜いた

予科練平和記念館 × 帰還者たちの記憶ミュージアム 平和祈念交流展

マンガ

『凍りの掌』の世界

娘が描く父のシベリア抑留記

2026年 7/18(土) - 12/13(日)

予科練平和記念館20世紀ホール (茨城県稲敷郡阿見町大字廻戸5-1)

開館時間 / 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで) / 休館日 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

入館料 一般(大学生以上): 個人500円、団体(20名以上)400円

小学生・中学生・高校生: 個人300円、団体(20名以上)240円 ※未就学児は無料

主催 予科練平和記念館、帰還者たちの記憶ミュージアム(平和祈念展示資料館 [総務省委託])



予科練平和記念館

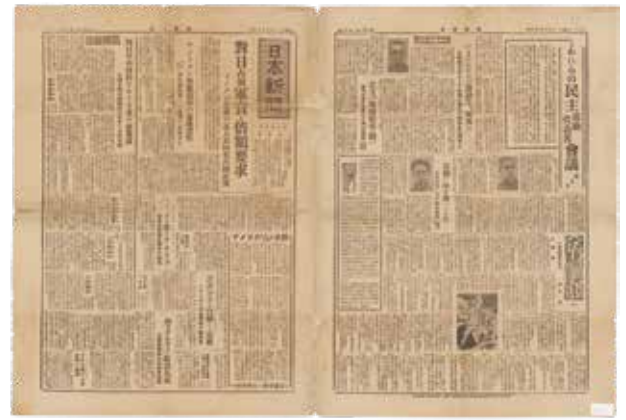
YOKAREN PEACE MEMORIAL MUSEUM

帰還者たちの記憶ミュージアム(東京都新宿区)では、さきの大戦における兵士、戦後強制抑留者(シベリア抑留者)、海外からの引揚者の労苦を後世に伝えるための活動の一つとして、他館との交流事業を行っています。2026年は予科練平和記念館との平和祈念交流展を開催します。

1945(昭和20)年、戦争が終結したにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境の中で過酷な強制労働に従事させられた方々を、シベリア抑留者と言います。中には、故郷に帰ることなく異国の地で命を落とした方もいました。

漫画家・おざわゆき氏の父親である小澤昌一氏も、シベリア抑留を耐え抜いた一人でした。学生時代に聞いた父の抑留体験は「どんな戦争関連の記録よりも異質」であると衝撃を受けたおざわ氏は、「マンガにしたい」と強く思い『凍りの掌』を執筆しました。

本展では『凍りの掌』複製原画や抑留者が持ち帰った服や日用品などを展示し、絶望の抑留生活の中で生き延びようとした人々の姿、そして、忘れてはならない抑留者の記憶を未来に伝えるおざわゆき氏の執筆活動についてご紹介します。



ソ連が発行した壁新聞「日本新聞」



作業中の日本人抑留者を撮った写真

EVENT

おざわゆき トークイベント「父と私とシベリア抑留」

会場: 予科練平和記念館 情報ラウンジ

7/18(土) ▶ 14:00~ (60分、13:45開場)

■参加: 無料(常設・交流展示ご見学は観覧チケットが必要です)

■事前申し込み不要 ■定員: 60名(先着順)

帰還者たちの記憶ミュージアム学芸員によるギャラリートーク

会場: 予科練平和記念館 20世紀ホール(各回約30分)

7/18(土) ▶ 11:00~ 9/19(土) ▶ 13:00~ 12/13(日) ▶ 13:00~

おざわゆきプロフィール

愛知県出身。父親のシベリア抑留体験を描いた『凍りの掌 シベリア抑留記』で文化庁メディア芸術祭マンガ部門新人賞。その後、母親の空襲体験をもとにした『あとかたの街』(講談社)を描き、『凍りの掌』とともに日本漫画家協会大賞を受賞。他には『傘寿まり子』(講談社)、『またのお越しを』(講談社)など。



車でお越しの方

- ・常磐自動車道(常磐道)桜土浦ICから国道125号バイパスを利用し約15分
- ・首都圏中央連絡自動車道(圏央道)牛久阿見IC・阿見東ICからそれぞれ約15分
- ※無料駐車場完備(普通車56台、大型バス5台、身障者用3台)

電車・バスでお越しの方 (JR常磐線「土浦駅」西口の1番バス乗り場から)

- ・関東鉄道バス「阿見中央公民館」行きに乗車し、「阿見坂下」停留所(所要時間約15分)で下車、徒歩約3分
- ・JRバス「江戸崎方面」行きに乗車し、「阿見坂下」停留所(所要時間約15分)で下車、徒歩約3分



白樺の木を削って作った手製の食器



予科練平和記念館
YOKAREN PEACE MEMORIAL MUSEUM

茨城県稲敷郡阿見町廻戸5-1 Tel.029-891-3344



帰還者たちの記憶ミュージアム
MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS DETAINED
IN SIBERIA, AND POSTWAR REPATRIATES
平和祈念展示資料館[総務省委託]



東京都新宿区西新宿2-6-1新宿住友ビル33階
Tel. 03-5323-8709 <https://www.heiwakinen.go.jp>